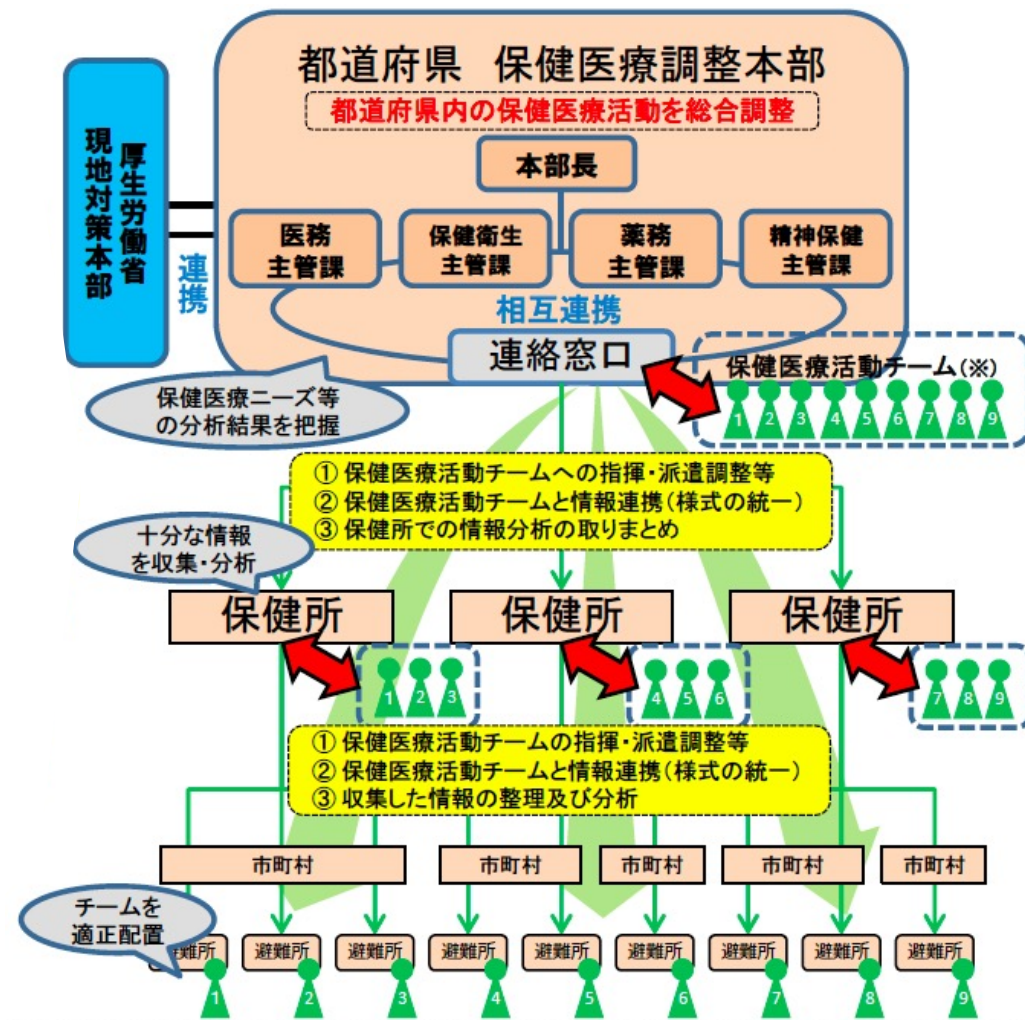


第2回DICT研修会 2021.10.14~12.13

受援DICT（被災地のDICT）

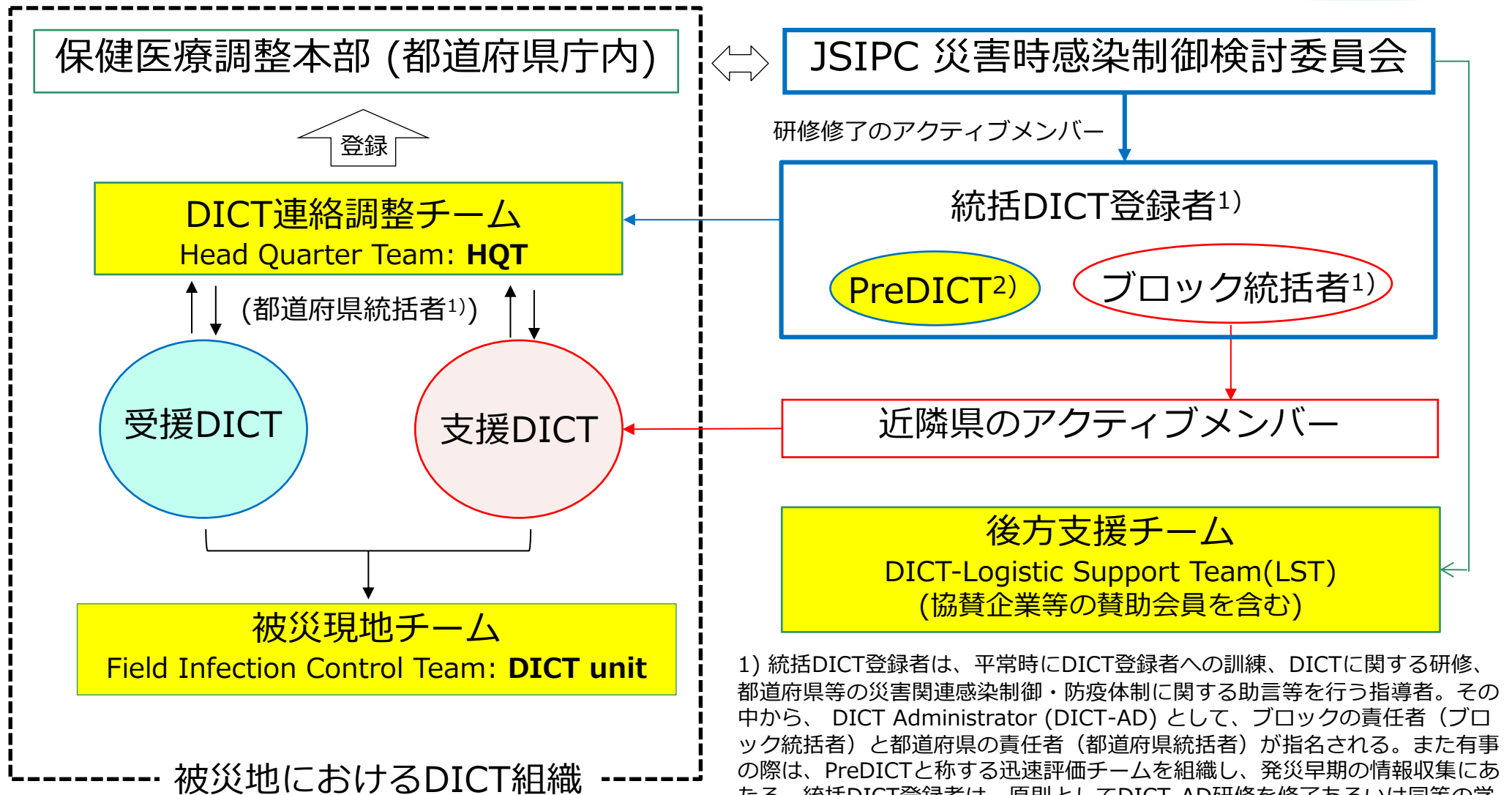
災害時の保健医療支援の仕組み

大規模災害時の保健医療活動支援体制(行政)



- DMAT
- JMAT (医師会)
- 日本赤十字社 救護班
- 国立病院機構 救護班
- JDAT (歯科医師会)
- DPAT (精神医療)
- 災害支援ナース (看護協会)
- 薬剤師チーム
- 管理栄養士チーム
- **DICT (JSIPC)**

DICT 組織の概要



1) 統括DICT登録者は、平常時にDICT登録者への訓練、DICTに関する研修、都道府県等の災害関連感染制御・防疫体制に関する助言等を行う指導者。その中から、DICT Administrator (DICT-AD) として、ブロックの責任者（ブロック統括者）と都道府県の責任者（都道府県統括者）が指名される。また有事の際は、PreDICTと称する迅速評価チームを組織し、発災早期の情報収集にあたる。統括DICT登録者は、原則としてDICT-AD研修を修了あるいは同等の学識・技能を有するとしてJSIPCが認めた者が、その資格を有する。

2) 迅速評価チーム Rapid Assessment Team: PreDICT

熊本地震におけるPreDICTの一例

4月21日 本震5日目



加來浩器先生と熊大病院内でミーティング
(自衛隊ICT派遣の可能性を知る)

4月23日 本震7日目



JSIPC-DICT委員長櫻井先生をはじめICATメンバーが支援物資とともに陸路で来熊.
(熊本市保健所駐車場)

受援DICTの定義

受援DICTとは、被災地域の都道府県に所在する統括DICT 登録者所属の医療機関あるいは医育機関等所属のICTあるいはDICT登録者を意味し、被災地において、被災者支援のために自助的に活動する「現地ICT」である。

- ・ 受援DICTは、JSIPCのDICT登録メンバーであることを条件としない。
- ・ 受援DICTに所属するDICT-ADは、支援DICTを統括し、指揮することができる。
- ・ 受援DICTは、支援DICTのメンバーのすべて、あるいは一部を受援DICTのユニット (DICT unit) に加えることができる (合同運用)。
- ・ 受援DICTは、多職種からなる4名を原則とするチーム(DICT unit)を編成し、DICT活動を実施する。チーム編成や活動内容などの調整役となるリーダーは、原則としてDICT-ADが務めることが望ましいが、被災状況に応じて変更することを妨げない。

Q1. どのように受援DICTを組織するのか？

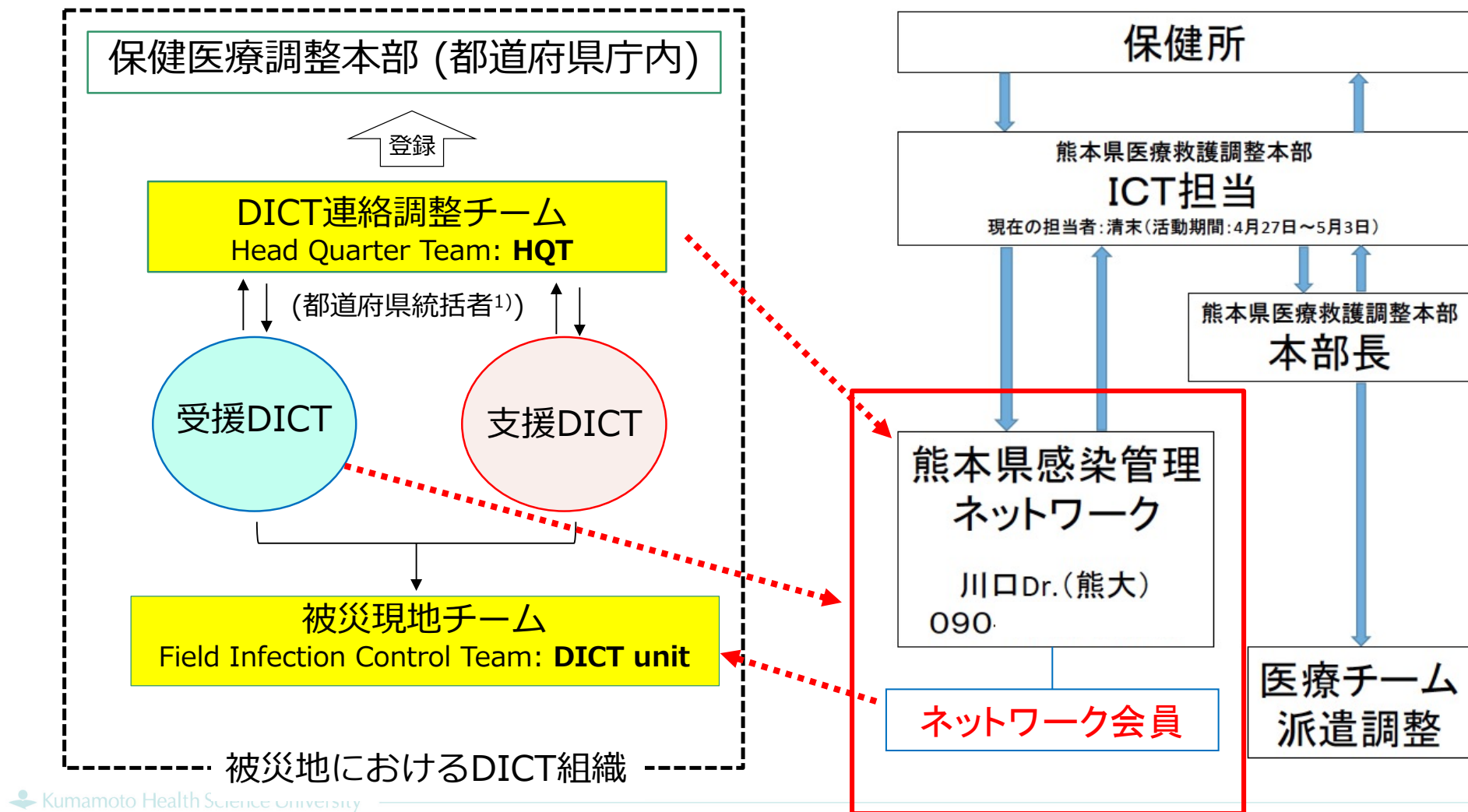
→ 平時からの受援DICTの受け皿の確保が望ましい
ICTの地域ネットワークや感染防止対策加算の連携などが想定される。 あなたの地域は？

(例) 熊本地震では、「熊本県感染管理ネットワーク (Kumamoto HAICNet)」が受け皿となった。ネットワーク事務局(熊本大学病院)がHQTの役割を担い、保健医療調整本部、学会、支援DICTとの連携業務、DICT unitの派遣調整などのコーディネーターの役割を担った。



熊本地震では、まだ学会主導のDICT組織化は行われておらず、現場のニーズにより偶然、地域ICTネットワークがDICT活動を行うことになった。今後は、事前に地域ICTネットワークの多くのメンバーが本研修を積極的に受けてアクティブメンバーとなっていていただき、その中から指導的役割を担う統括DICT登録者を育て、さらにリーダーとして都道府県統括者の選定を終わらせておくことで、災害時に即時対応できる体制を整備しておくことが肝要である。

熊本地震における地域ネットワークの 熊本県医療救護調整本部における位置付け



Q2. 地域ネットワークが発災時にDICT活動を開始する際に注意すべきことは？

1. HQT (地域ネットワーク事務局)は、メンバーに対してDICT活動方針をできるだけ早期に周知する（問題点や感染対策二ーズの早期把握）。
2. メンバーは自施設の復旧や診療を優先し、DICT unitの編成要員が不足する場合は支援DICTへの依頼を検討する。
3. メンバー所属の病院長宛に文書で派遣依頼を行い、業務の一環として院外活動を可能とすること(労災の適用)。JMATの枠内での派遣も可能である。

実際に行った “会員への周知と協力依頼”

4月20日(水)本震 4日目

熊本地震に伴う避難所生活における感染管理
上のリスクアセスメントのお願い(会員限定)
2016.04.22

熊本地震に伴う避難所生活における感染管理
について **2016.04.22**

熊本地震に関するお願い(会員限定)
2016.04.20

*本来であれば、平時に災害を想定した協力体制を確立すべきであり、備えがあればこのステップは回避可能



The screenshot shows the homepage of the Kumamoto Infection Management Network. The header includes the title '熊本県感染管理ネットワーク' and navigation links: ホーム, 組織概要, 感染症発生状況, 微生物サーベイランス, E-learning, お知らせ. The main content area features a large image of healthcare workers and a text box explaining the network's purpose. Below this is a row of icons representing different professional roles: 医師の方, 看護の方, 検査技師の方, 薬剤師の方, 歯科領域の方, and 介護関連の方. A '新着情報' (New Information) section lists several updates with dates, including updates to the microbiology survey and information regarding the risk assessment request. On the right side, there is a 'Q & A 集' (Q & A Collection) section with a link to the user manual and a list of related links including various hospitals, research institutes, and pharmaceutical companies.

同時に活動方針を明示



平成 28 年 4 月 20 日

熊本県感染管理ネットワーク会員の皆様へ

事務局 前田 ひとみ

川口 辰哉

このたびの熊本大地震では、ご自身が大変な状況下で、患者様のために懸命に診療に取り組んでおられることと拝察致します。ところで、今回被災された住民の方々の避難所生活が長引くことが予想されていますが、避難所での衛生管理・感染対策が極めて重要になってまいります。一部の報道では、ノロウイルスによる嘔吐下痢症が発生したと伺っておりますが、このような感染力の強い病原体による感染症が避難所でいったん発生しますと、容易に感染が拡大することは申し上げるまでもございません。私ども熊本県感染管理ネットワークといったしましても、そのような避難所での感染防止に少しでもお役にたてばと願っております。

そこで、熊本県感染管理ネットワークとして次のような災害時の活動方針を考えており、一部は既に開始しています。

- (1) 熊本県内の行政や災害医療に関わる各種団体と情報共有を目的とした連携をはかる。
- (2) 熊本県外の支援組織（日本環境感染学会災害時感染制御検討委員会など）との連携をはかる。
- (3) 熊本県感染管理ネットワークの会員に対して地域での感染情報やニーズなどの情報収集を行い、情報を会員で共有する。
- (4) 熊本県感染管理ネットワーク会員に対して、災害時の感染対策マニュアル等を提供する。
- (5) 会員が属する二次医療圏において、保健所等が実施する避難所における感染防止対策等を支援する。

自施設の診療が最優先ではございますが、余裕があれば(3)、(4)、(5)のところで、ご協力を賜れば幸いに存じます。ご検討のほどを宜しくお願い申し上げます。

4月20日(水) **本震4日目**

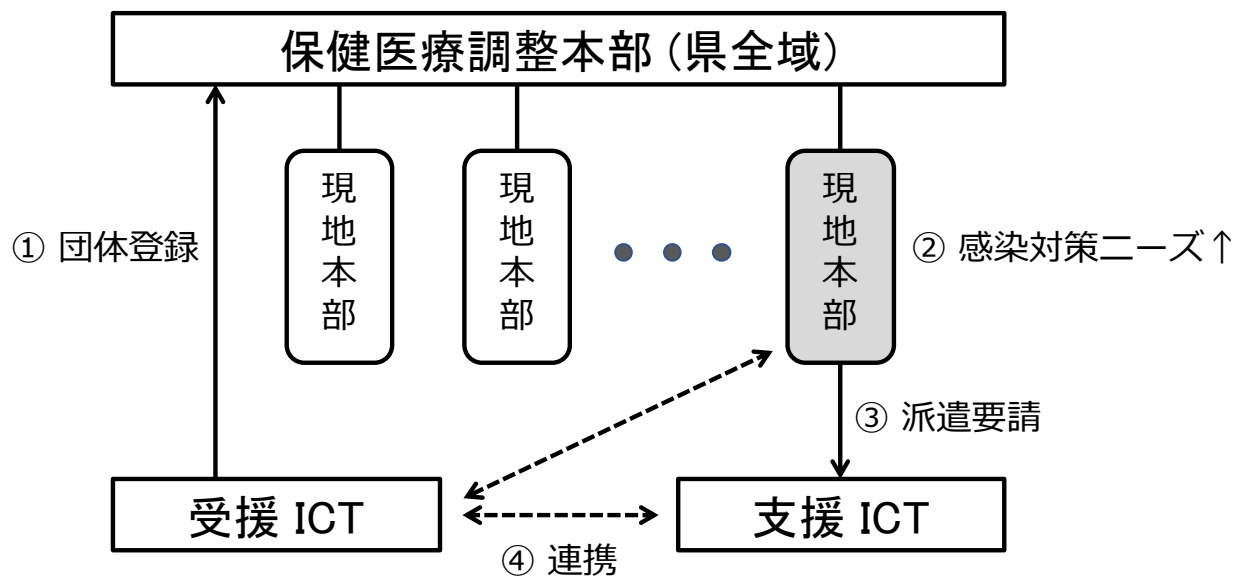
活動方針

1. 熊本県内の行政や災害医療に関わる各種団体と情報共有を目的とした連携をはかる。
2. 熊本県外の支援組織（日本環境感染学会災害時感染制御検討委員会など）との連携をはかる。
3. 熊本県感染管理ネットワークの会員に対して、地域での感染情報やニーズなどの情報収集を行い、情報を会員で共有する。
4. 熊本県感染管理ネットワーク会員に対して、災害時の感染対策マニュアル等を提供する。
5. 会員が属する二次医療圏において、保健所等が実施する避難所における感染防止対策等を支援する。

*** 自施設の診療優先を忘れずに**

Q3. 支援DICTとの連携・調整はどうか？

図1. 発災初期の受援側と支援側のICT連携手順



- ① 受援ICTは、あらかじめ組織として保健医療調整本部に団体登録しておく。
- ② ③ 感染対策のニーズが高い現地对策本部は、必要に応じてICT派遣を要請する。
- ④ 受援ICTは、ICT派遣要請の情報をもとに、現地对策本部や支援ICTと連携する。

派遣要請・調整のあり方

形式：都道府県本部→JSIPC

実際：
受援ICT(HQT)/都道府県統括者



ブロック統括者/近隣の支援DICT

*お互いに顔見知りのことも多く、個人的なコミュニケーションもとりやすい

熊本地震における支援ICTとの連携事例

4月23日(土) 本震7日目

2016年4月24日 日曜日 熊本日日新聞 第2版 (昭和7年4月1日第3種郵便物認可)

避難所で集団感染か



熊本地震

不明者搜索は中断

南阿蘇村ノロウイルス25人

関連死12人に

熊本地震の被災者が避難している南阿蘇村の避難所では、男性59人がノロウイルスに感染し、23日まで感染の疑いがあるとして、男性が少なくとも1人が救急搬送された。村によると、男女計1人が集団感染した疑いがあるという。14日の朝から10日までの間、県内では615カ所に約6万7千人が避難。避難生活の過酷さと疲れが、健康に大きな影響を及ぼし始めている。

いた南阿蘇村の南阿蘇村の避難所では、男性59人がノロウイルスに感染し、23日まで感染の疑いがあるとして、男性が少なくとも1人が救急搬送された。村によると、男女計1人が集団感染した疑いがあるという。14日の朝から10日までの間、県内では615カ所に約6万7千人が避難。避難生活の過酷さと疲れが、健康に大きな影響を及ぼし始めている。

まず阿蘇を！

地震で孤立した阿蘇地域の危機

阿蘇の動き

4/22(金) ADRO発足

4/24(日)
ADROとK-HAICNetが
ミーティングを開催し、
長崎大学泉川先生をリ
ーダーとするADRO-
ICTが発足

K-HAICNetの動き

4/23(土) 県庁で会議
自衛隊ICT要請

4/24(日)
AM: 自衛隊ICT結集,
ミーティング
PM: 物資を抱えて阿蘇へ

K-HAICNet

長崎大ICT

自衛隊ICT

さくら総合病院ICT

長崎大ICT

自衛隊ICT

さくら総合病院ICT

K-HAICNet

鹿児島県医師会災害チームによるICT活動

鹿児島県医師会災害医療チームによる 2016 年熊本地震における 避難所感染対策支援活動

川村 英樹^{1,2)}・徳田 浩一^{1,2)}・川上 雅之²⁾・有村 敏明²⁾

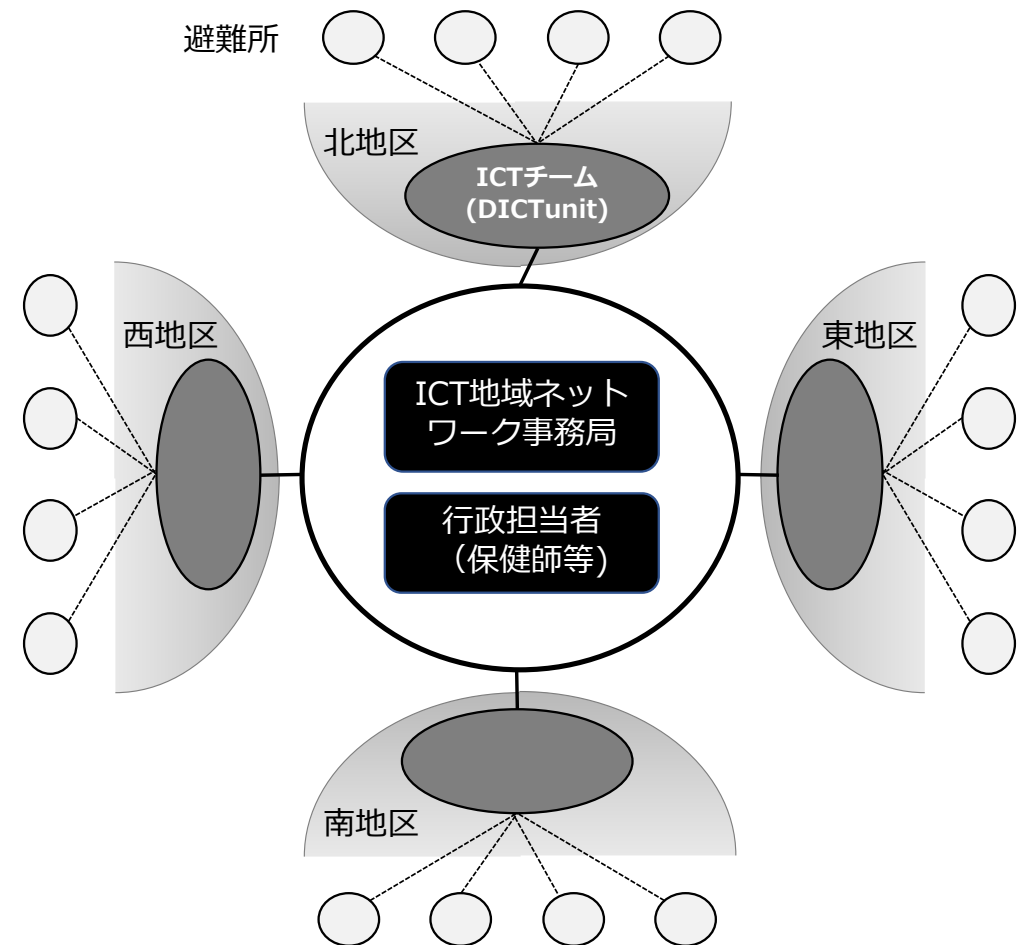
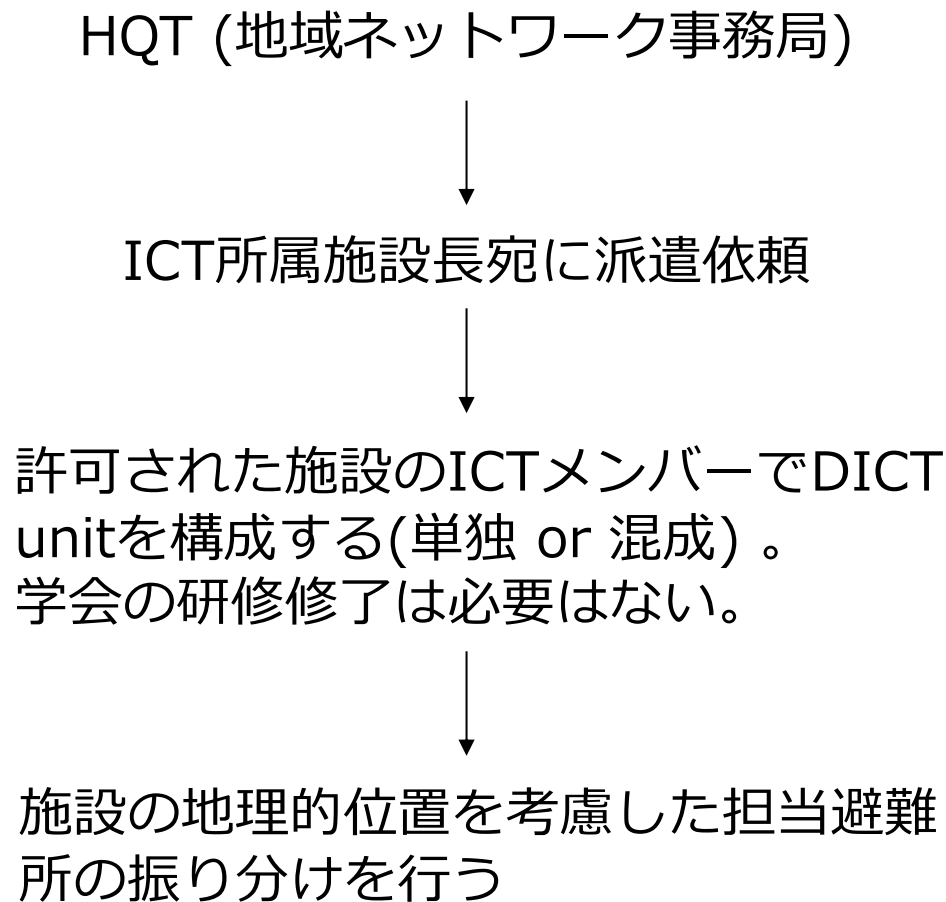
川口 辰哉³⁾・松井 珠乃⁴⁾・西 順一郎^{1,2)}

環境感染誌 32:282-290, 2017



Q4. 受援側のDICT unit 編成と活動の 具体例は？

図2. 域内DICTunitの活動体制



避難所巡回状況の一例

(北区, 中央区:〇〇病院担当)

5月		3日	6日	7日	13日	20日	21日	27日
拠点避難所	☐ ☐ センター	○		○	○			○
	☐ ☐ 出張所	○		○	○	○		
	☐ ☐ 体育館	○		○	○			
	☐ ☐ 武道場	○		○	○			
	☐ ☐ 施設		○	○	○			○
	☐ ☐ 施設			○	○			○
その他	☐ ☐ 出張所						○	
	☐ ☐ 出張所						○	

拠点避難所のリスクアセスメント例

	□□ センター	□□ 出張所	□□ 体育館	□□ 武道場
避難者数	最大XX名 要介助者なし	最大XX名 要介護者なし	最大XX名 要介護者なし	最大XX名 要介護者なし
避難所の環境	1 階・ 2 階の会議室、 和室 エアコン完備	2 階会議室 エアコン完備	1 階体育館 2 階ロフト（ペット可） エアコンなし→設置予定	ワンフロア エアコンなし→設置
隔離対応	○	△	×	×
手指衛生	液体石鹸、及び擦式アルコールを使用できる環境がある			
トイレ環境	和式トイレ(洋式トイレはわずか)： 委託業者と看護師が定期的に清掃し管理			
物資援助	おう吐・下痢処理セット、 ペーパータオル、液体石鹸、 アルコールクロス、ディス ポマスク、飲料用水など	ペーパータオル、次亜塩素酸ナトリウム、アルコールクロス、 ディスポ手袋、ディスポエプロン、環境除菌・洗浄剤など		
活動内容	□□体育館：ペット飼育状況の確認			
	- 生活スペースを土足禁止区域とするよう指導 - ポスター掲示『手指衛生手順』『食中毒予防』『体調不良の方へお願い』 - 体調不良者出現時のマニュアル配布と担当者への指導 - 体調不良者（嘔吐・下痢・カゼ症状）チェック表の配布と記載依頼			
自治体病院看護師が避難所に常駐後は、避難者の健康状況把握が行われている。 管理者が明確になったことで巡回時の情報収集が容易になった。				

熊本地震で活躍したDICT



ADRO*
長崎大学
自衛隊
さくら総合
の各ICT

*Aso Disaster Recovery Organization

熊本赤十字病院ICT/ネットワークICN

天草医療センターICT/鹿児島大学ICT

熊本市民病院、熊本機能病院
国立病院機構熊本医療センター
くまもと森都総合病院
熊本中央病院、熊本済生会病院

鹿児島大学ICT



赤色は県外チーム

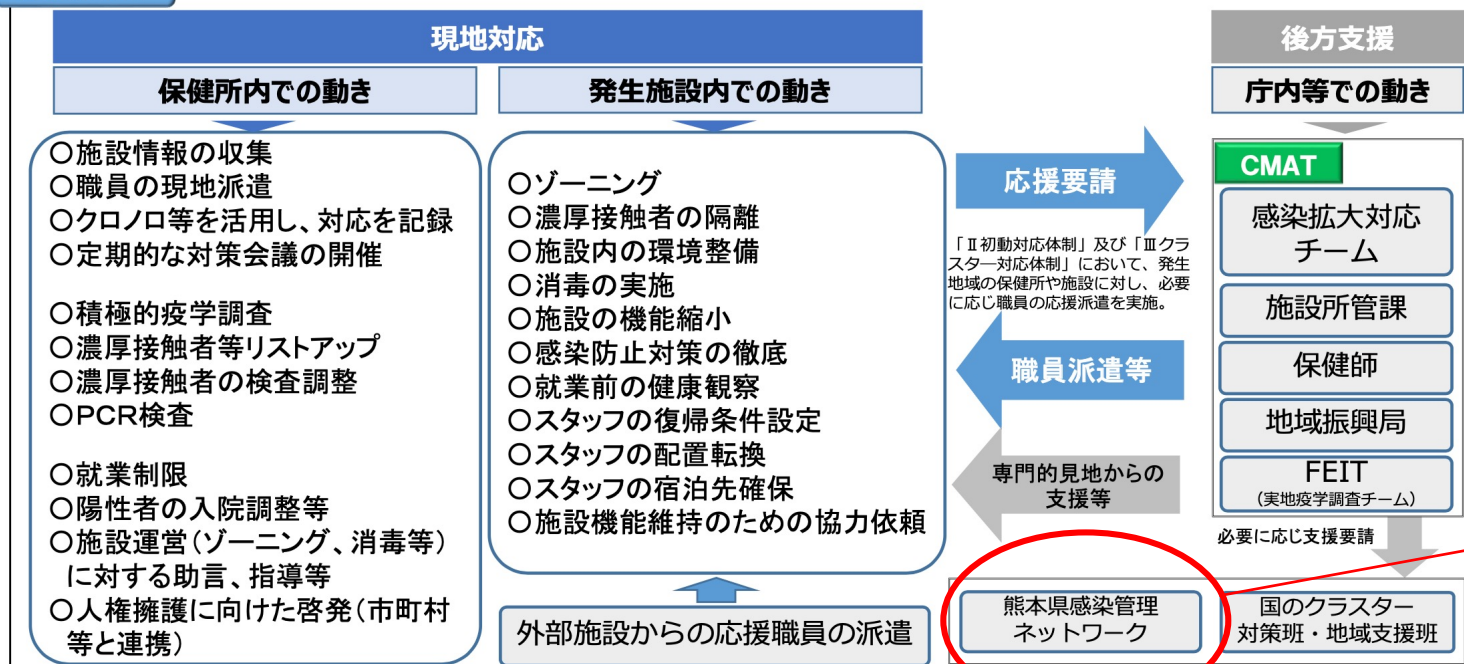
Q5. COVID-19パンデミック時の DICT unit 活動の実際は?

施設等における新型コロナウイルス感染症クラスター対策について【熊本県】 ～CMAT (Cluster Management Assistance Team) の創設～

概要

医療機関や高齢者施設、障がい者施設等において新型コロナウイルス感染者が発生した場合に、**保健所と連携して、迅速な状況把握や施設の事業継続支援等に対応する「CMAT」**を創設し、クラスターの発生防止や早期収束に対応する。

活動内容



- 熊本市内の施設等についても、必要に応じ相互に応援体制を取るなど、連携しクラスター対策にあたる。
- 学校や企業等におけるクラスター発生時にも、上記枠組みを応用し、必要な対応を行う。

平時より、災害時の感染対策にICT地域ネットワークが関与する受援DICTの枠組みがあれば、クラスター対策への支援体制も比較的容易に構築可能と考えられる。

感染管理認定看護師を中心に、県の要請に応じてクラスター施設で感染対策の支援を実施。

ご清聴ありがとうございました。

